

トレーニングプログラム次第でバイスタンダーの未来が変わります。 理想の未来に向けたトレーニングをご提案します

確認のポイント

今行っている方法は…

受講者の積極的な参加や計画的訓練を
確実なものにしていますか？

受講者が学んだスキルが定着し、実施できる、
という確信がありますか？

受講者のリアルタイムパフォーマンスを
簡単に把握できていますか？

受講者のパフォーマンスの
客観的な測定や評価ができていますか？

受講者は、今後CPRを実施するにあたり、
確実に実施するという自信がついていますか？

今実施している
トレーニングプログラムを
どのように改善できるか、
ぜひレールダルホームページを
ご参照ください。



2分以内にCPRが実施されると
救命の可能性は

2倍 ~ 3倍

になります。



現状日本ではバイスタンダーによるCPRは **56%** しかおこなわれていません

人々がCPRを 実施しない 3つの理由

28%

最新のスキルを
身に付けていない

24%

CPRは
複雑すぎる

18%

自信がない

米国データ

専門家団体の 合意内容

2018

1月

2018年1月より
米国赤十字社は直接実施する
すべてのCPR講習クラスにて
CPRフィードバックデバイスを導入し、
またCPRトレーニングに従事する
すべての人々にこのようなデバイスの
使用を推奨しています。

2019

1月

2019年1月31日
AHAは
ダイレクトフィードバックデバイスの
使用を成人CPRトレーニング
すべてのコースにて義務化します。



トレーニングクラスにて フィードバック機能を 導入した成功事例:

- **受講者の関心向上**
競争意識が生じ、興味が持続する
- **自身のパフォーマンスの確実な確認**
結果が見えることで質の高いトレーニングができ、
結果的に質の高い学習となる
- **積極的な実施促進**
受講者のトレーニング結果を通して共通認識を持ち、
必要な指導を行える
- **賢い選択**
無理なく導入でき、受講者が熟中するような
フィードバックシステムを選択する

受講者が積極的に参加せずお悩みですか？

一般的なトレーニングクラスでは:

関心度

参加者の **40%** は積極的に参加している。

学習度

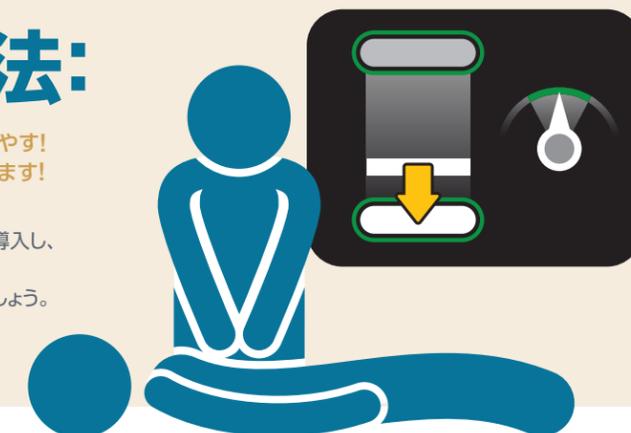
最初の10分以内に
聞いたことの **70%** は
覚えられる。

最後の10分以内に
聞いたことの **20%** は
覚えられる。

解決方法:

積極性を促す要素を増やす!
そのための技術があります!

トレーニング手法に
フィードバックデバイスを導入し、
受講者の関心と
スキルの保持を強化しましょう。



日本では

年間 **120,000件以上**

の院外心停止が
発生しています

その救命率はわずか5%です。

あなたの受講者がこの状況を変えていくのです。